

## 福井の技術 医療に次々 手術の医師 負担軽減スーツ 異業種組み市場開拓

日本経済新聞 地域経済

2018年3月20日 2:19 [有料会員限定]

福井県の地場産業を中心とする機械、繊維などの5社が連携し、新しい医療機器の開発に挑んでいる。手術する医師の体の負担を軽減するアシストスーツを2018年度中に商品化する計画だ。医療への異業種参入では眼鏡フレーム大手のシャルマン（福井県鯖江市）が手術機器を生み出した成功例がある。ものづくりの技を成長分野に生かす取り組みを福井県や大学も後押しする。

同県永平寺町の福井大学病院で6日に行われた医療用アシストスーツの実証実験。スーツを身にまとった耳鼻咽喉科の医師、扇和弘さんが手術器具を持つ手をベッドのほうに伸ばし、足でスイッチを操作すると、腕がしっかりと固定された。

これまで医療現場の手術では医師がベッドの横の台にひじをつき、手先だけを動かしていた。スーツを試した扇さんは「手術中、ずっと伸ばしている手がだいぶ楽になる」と明るい表情だ。同病院は今春にも耳鼻咽喉科の手術に使うほか、他の診療科にも拡大を探る。

同スーツの開発を進めるのは5社の企業グループだ。福井県内に拠点を持つアシストスーツ開発のアトウン（奈良市）、省力機器のシマノ（福井県鯖江市）、繊維製造卸の米沢物産（福井市）、樹脂製品の八木熊（同）、医療機器販売のミタス（同）だ。県の工業技術センターが開発に関心を持つ企業との調整や技術支援にあたる。

きっかけは2年前。福井県が地場企業を対象に福井大病院で見学会を開いた際、ある医師が「体を保持させるスーツがほしい」と提案し、開発が始まった。シマノは「医療分野に取り組むことで、省力化機器の顧客を広げることができる」としている。

福井県は15年、産業振興指針にあたる福井経済新戦略を改訂し、医療産業への参入促進を柱の1つに掲げた。高齢化や健康志向の高まりで成長を見込める医療産業に地場産業の技術を生かし、新市場の開拓につなげるのが狙いだ。同年、産学官の連携組織「ふくいオープンイノベーション推進機構」を発足させるなどの取り組みを強化した。

既にニット生地製造の福井経編興業（福井市）が帝人、大阪医科大学（大阪府高槻市）と共同で心臓修復用のパッチの開発を進めるなど、異業種参入の動きが相次いでいる。